

64th

入賞・入選
目録

延岡市美術展覧会



彫刻・工芸部門 特選
「停滞と昇華」



日本画・水墨画・ちぎり絵等部門 特選
「時の鐘つき堂」



写真部門 特選 「春の日」

会期:平成26年7月5日(土)~7月18日(金)

【休館日:7月8日(火) 7月15日(火)】

会場:延岡総合文化センター展示室1・2

【開館時間:AM 9時 ~ PM 5時】

主催:第64回延岡市美術展覧会実行委員会・延岡市・延岡市教育委員会・延岡市文化連盟

◇ 後援(順不同)◇

宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市議会・延岡商工会議所・(社)延岡市医師会
延岡農業協同組合・(社)延岡市西臼杵郡薬剤師会・旭化成(株)延岡支社
ホテルメリージュ延岡・センコー(株)延岡支店・清本鐵工(株)・宮崎日日新聞社
夕刊デイリー新聞社・(社)延岡市歯科医師会

洋 画

特選	延岡市長賞	野村幸枝 ^{ユキエ}	なに、なに？わたしも入れて！	油彩
準特選	延岡市文化連盟会長賞	藤崎みちこ	鯨の散歩	油彩 アクリル
準特選	延岡市教育委員長賞	永島舞華 ^{マイカ}	崩れゆく校舎と私	油彩
奨励賞	延岡市教育長賞	三谷文男	香る	
奨励賞	延岡市西臼杵郡 薬剤師会長賞	落合直文	真夏日	油彩
奨励賞	延岡農業協同組合 代表理事組合長賞	山内登紀子	初夏	水彩
奨励賞	ホテルメリージュ延岡賞	上山晴久	TP.14-3(閑日)	油彩
奨励賞	清本鐵工(株)社長賞	恒松寿珠 ^{ツネマツジュジュ}	曇天	油彩
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	赤澤隆	ギョエーⅡ	油彩
努力賞		山崎郁夫	海咲 ^{ミサキ} ヒルズ夕景	水彩
無鑑査		後藤光雄	情報	アクリル
無鑑査		工藤晏生 ^{ヤスオ}	中江岩戸神楽 ^{ナカエイフトカグラ}	油彩
無鑑査		八木隆幸	まるの詩 ^{ウタ} ・13～6 ^ヒ 碑	油彩
無鑑査		クリストファー・トラウトマン	Meeting on the Stairs	木炭画



入 選



池田見一	メディアが誘う1300年の旅	油彩	水津保	白夜に屍の泣く	油彩
石丸圭汰	或る街	油彩	末吉美奈	港	油彩
岩崎奈美子	高原の冬	油彩	高橋絵美里	時の行方	水彩
上野楓華	遊ぶ	油彩	武田昭三	浜	油彩
江藤繁	ポンテ・ヴェツキオ	水彩	田中節子	祈りII	油彩
奥田美咲	訪古	油彩	成合英子	行滕の滝	水彩
楠本紘之	カンガルー	油彩	野口智哉	environmental changes ～環境の変化～	アクリル
久保ケイ子	路	油彩	野村豊	朽ちる	油彩
黒木利広	悲しみ	油彩	林弘之	海風	アクリル
黒木光子	廃墟(軍艦島)	アクリル	樋尾佑太	衝突	油彩
神谷友里	アンマー	油彩	廣瀬貴至	形象「S氏の場合」	油彩
古小路禮子	ごはん粒	水彩	福光透也	光	油彩
小林瑠奈	創	油彩 アクリル	古海結希	サルの木のぼり	油彩
佐藤幸義	海に思う		松元望	木もれ日の道	油彩
眞田昌良	朝が来たー!!	水彩	松山敏夫	山の神	油彩
塩川華湖	立ち止まって	油彩	八木千穂子	庭園 x 2014.6	水彩
志田嘉嗣	岬	油彩	油井絵里名	石磴	油彩
首藤孝子	変容 I	油彩	陸丸敦子	おかあさんといっしょ	油彩

日本画・水墨画・ちぎり絵等

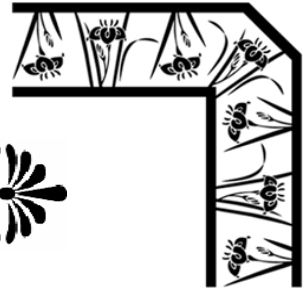
特選	延岡市長賞	原辰義	時の鐘つき堂	剪画
準特選	延岡市教育委員長賞	岩切恵美子	梅雨の晴れ間に	ちぎり絵
奨励賞	延岡市議会議長賞	工藤晏 ^{ヤスオ} 生	My Play Area in Childhood	日本画
努力賞		坂本真理	食卓は戦場	切り絵
無鑑査		小野きよ子	セイカ ^{清華} ユフダケ ^{由布岳}	ちぎり絵

入選

大槻スエ子	桜花おぼろ	ちぎり絵	高橋綾子	彩苑	麦秋のころ	日本画
岡田とく恵	蓮	日本画	豊田ハルノ		庭	ちぎり絵
甲斐光子	ばらシンフォニー	ちぎり絵	山内登紀子		春爛漫	日本画
工藤俊英	はい、ポーズ	切り絵	湯地イチイ		晩秋	ちぎり絵
佐多光夫	光城 岩峯屹立雄大	水墨画	吉玉奉枝		華のしらべ	ちぎり絵
佐藤幸子	壺と藤	ちぎり絵				



彫刻・工芸



特選	延岡市長賞	松本奈央美	停滞 <small>ショウカ</small> と昇華	彫刻
準特選	延岡市文化連盟会長賞	田口京子	天空のバラ	友禅染
奨励賞	宮崎日日新聞社賞	工藤 <small>タケト</small> 武人	薪能 <small>タキギノウ</small> 灯り	陶芸
奨励賞	延岡市歯科医師会長賞	成岡コマ子	結婚しよう	友禅染
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	藤岡郁子	原点	パッチ ワーク
努力賞		磯田 <small>ミツキ</small> 光希	双宴 <small>ソウエンカキ</small> 花器	陶芸
無鑑査		芝 <small>イクノリ</small> 行則	言葉のないことば	彫刻
無鑑査		中村有子	金彩幾何学紋器「種子 <small>キンサイキカガクモンキ「シュシノシズク」</small> の雫」	陶芸
無鑑査		武田弘子	輝いている雲海	友禅染

入選

伊東珠貴	ito-cube	照明	関武司	鉄赤結晶窯変	陶芸
今村円香	万華鏡	絞り染め	高橋美和子	刺しゅうの テーブルセンター	刺繍
岩崎未波	タツノオトシゴ	彫刻	高見昭夫	夏風そよぐ竹の恵	
甲斐富美子	海底散歩	パッチ ワーク	田上多津美	やぶつばき	友禅染
甲斐正行	荒神(創作面)	彫刻	西田昌弘	流紋	陶芸
甲斐松美	バラと小花の楽しい コラボレーション	パッチ ワーク	松田洋子	月乃雫	球体関節 人形
川崎えつ子	春のシンフォニー	刺繍	三宅久美子	花ごよみ	友禅染
栗山京子	夏信	陶芸	武藤勝	練込水指	陶芸
是木麻佑	初夏	ろうけつ 染め	山本明未	梅雨の風	ろうけつ 染め
白瀬叔子	月光の宴	友禅染			

グラフィックデザイン

特選 延岡市長賞 河野英樹 めぐる九州つながる延岡

準特選 宮崎県知事賞 古川友江 兎の瞳

奨励賞 延岡市医師会長賞 齋藤穂果 月の裏

努力賞 田上士六^{ヒトム} 住宅塗装のすすめ

入選

荒武くるみ 不自然な自然

石田麻理子 掃除時間？

植田晴瑠華 環境汚染警報

齋藤光華 ネットに支配された中で…

境理佳子 勉強食べ盛り2

佐藤良美 Elephantart？

中原涼葉 箸 = 指？

福嶋沙知子 誤飲

水上聖汰 問題のある公共施設2

矢野麗桜華 電車の乗車マナー

渡辺桃香 女子高校生の日常



書 道



特選	延岡市長賞	山 浦 秀 子	ハクシュウ トウジツグウゼンサク 柏秀 冬日偶然作
準特選	延岡市文化連盟会長賞	伊 藤 由 美 子	シュンカ 春華 ぐれないの二尺伸びたる他一首
準特選	延岡市文化連盟会長賞	前 田 佳 代 子	カセン オウギョウヨウシ 佳泉 王漁洋詩
奨励賞	延岡市議会議長賞	岡 崎 亜 希 子	イツカ ボンシュンキヤクトソクケイ 一華 暮春客塗即景
奨励賞	延岡市教育長賞	植 野 寿 美 子	ジュセン シュンカン 寿泉 春感
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	小 野 静	レイカ シンジョウノドウチュウ 麗華 新城道中
奨励賞	夕刊デイリー新聞社賞	上 杉 実 妃	シュウクウ 珠光 ことごとく
努力賞		飯 干 朗	センボウ アンタニナンエンニイタツテワラビヲトル 千峰 晨詣南園采蕨
招待作家		岩 下 基 子	シュンライ リクホウオウク 春来 陸放翁句
招待作家		大 塚 洋 子	ヨウフウ コウソノヨリコキョウヲノゾム 葉風 自江村望虎丘
招待作家・無鑑査		西 村 香 枝 子	ワコウ コウゲツヤウカフネ 和香 眞江月夜汎舟
無鑑査		植 野 春 雄	セイホウ ショウノゼンイン 聖鳳 支公禪院
無鑑査		西 村 寿 洋	ゲンヨウ コウギョウ 玄洋 江行

入 選

赤田久美子	美遊 渡雙溪	西條正晃	苦中作樂
上杉秀子	秀香 眞州城南作	坂本淳	静峰 言猶在耳・神情朗達
上野和子	和風 あしびきの	佐藤ナオミ	翔華 登八達嶺
植野幸雄	竹山 贈高式顔	篠原和子	和葉 第一禪林
植野洋一	桂石 白居易詩	田中健一	稜山 破山寺後禪院
上原幸子	香玉 秋日天華上人と雲崎に遊ぶ	谷口隆幸	鶴城 周昂詩
牛迫孝子	春香 劉嗣綰詩	年森恵	祥雲 允禧
緒方和子	華苑 王維詩二首	富高梅生	玉振 姑蘇臺畔
岡村公子	瑛翠 送許竹隱之紹興	難波和恵	柏舟 桃源漁父行
小田千穂	紅扇 春寒き	西田登美子	美風 述懷
甲斐かおり	香風 雨止	延時文子	香鈴 寶帶橋
甲斐タヅ子	柏苑 支公禪院	服部一夫	悠山 何良傳氏
甲斐多美子	祥景 客暁	原田さゆり	桑峰 出羽路尿前
甲斐睦子	柏葉 松島	松岡昌子	滑疑之耀
城戸雅子	富翠 古別離	吉玉喜世子	喜風 叔父季思別業
小坂千代子	千草 王士祿詩	渡邊康子	翔香 恨別

写真

特選	延岡市長賞	松尾香代子	春の日
準特選	宮崎県教育長賞	横山守	王者の貫禄
準特選	延岡市文化連盟会長賞	甲斐直志 ^{ナオユキ}	棚田の妖精
準特選	延岡市文化連盟会長賞	阿部節子	もうよかろうがえ
準特選	延岡市教育委員長賞	中村康政 ^{コウセイ}	夏雪 ^{ナツユキ}
奨励賞	延岡市教育長賞	小松清春	ご来光をめざす人の帯
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	緒方正光	朝喰 ^{アサジキ}
奨励賞	延岡市医師会長賞	甲斐靖一 ^{ヤスイチ}	初夏の宵
奨励賞	延岡商工会議所会頭賞	甲斐民人	宇宙遊泳
奨励賞	ホテルメリージュ延岡賞	水津保 ^{スイツタモツ}	自画像
奨励賞	センコー(株)延岡支店長賞	小川忠之	里山の女王
奨励賞	延岡市美術展覧会実行委員長賞	植野浩人	おめでたい日
努力賞		山口敏夫	舞 ^{マイ}
無鑑査		高橋ミサ子	年輪
無鑑査		後藤司郎	秋燦燦 ^{アキサンサン}





入 選

- | | | | |
|----------|------------|----------|-------------------|
| 荒瀬 甫 | にんじんダンス | 周防 政 幸 | 窓辺の少年 |
| 有馬 常 行 | 男の祭り | 鈴木 久 人 | 飛んで、もっと高く! |
| 安藤 義 春 | 「舞う」 | 鈴木 り え | 夕暮れの恋人たち |
| 飯干 幸 一 | 神楽道行 | 雀ヶ野 秀 憲 | 菜の花畑のパフォーマンス |
| 家森 忠 雄 | 画 | 高島 八 千 代 | もふもふ・もぐもぐ |
| 池田 晃 二 | 神楽の賄い | 田口 恵 子 | 朝露の中で |
| 伊東 英 一 | 待ちわびた春 | 竹 内 寛 | 仲良し |
| 井上 政 範 | タイムスリップ | 谷 久 美 代 | 夢をのせて |
| 井本 三 好 | 勇壮華麗 | 千葉 雄 一 | 冬と春 |
| 衛藤 惇 夫 | 燃る木 | 富 山 恵 | どや顔 |
| 大石 隆 治 | 優しさの回廊 | 永田 能 夫 | 朝の出合い |
| 大川内 かつ子 | 92才の春 | 長友 道 生 | 火振りの女 |
| 太田 重 久 | 黄金に輝く棚田 | 中野 孝 一 | 水鏡の不二山 |
| 大山 久 雄 | 港祭・響け海原へ | 那須 重 人 | ヨッ! キジ鳥さん |
| 大山 義 広 | 硝子の丘 | 新名 邦 英 | クライマックス |
| 岡野 勉 | 春の池 | 西原 知 里 | ひょっとこマリオ |
| 押方 徹 | カキのなげき | 新田 芳 則 | 至福の時 |
| 乙部 武 志 | 仲間たち | 春口 五 男 | 躍動 |
| 甲斐 勇 一 郎 | 清流の旋律 | 前田 佳 代 子 | 自慢のわが家 |
| 笠村 陽 一 | 白水紋 | 松井 信 介 | 窓辺 |
| 川路 澄 夫 | 航空ショウ | 三角 克 彦 | 夢に向って |
| 川野 政 弥 | 渚で遊ぶ | 宮崎 金 男 | 水行 |
| 河野 康 哉 | 田の神さーまつり | 宮良 信 道 | 神々の浜下り |
| 川端 章 | 春便り | 森 守 | 渚の人 |
| 清永 俊 | 光のかけっこ | 柳田 か お り | あ〜ん ばあちゃんにもちようだ〜い |
| 木脇 文 三 | 夏の思い出 | 柳田 実 男 | 美のフォルム |
| 黒木 憲 二 | 幻霧 | 矢野 仁 祺 | 冬日 |
| 黒木 男 | 早わざ | 山田 悦 子 | 祈り |
| 小谷 節 子 | しゃぼんの妖怪 | 横山 喜 年 | 鴨の水中ショー |
| 佐藤 卓 志 | 雨あがりのメロディー | 若松 敏 男 | 木漏れ日の滝 |
| 佐藤 傳 | じゃんけん・ぼん | | |

審査講評

(審査員の氏名は、敬称を略させていただきました。)

【洋画部門】

福岡市（九州大学大学院人文科学研究院教授） 後小路 雅弘

応募作品は、どれも甲乙つけがたい力作ぞろいでしたが、入賞作品を選ぶとなると、技術的な巧拙を越えて、この2014年という時代の空気をどこかしら反映しているものを選びたいと思いました。

特選の野村幸枝さん「なに、なに？わたしも入れて！」は、超高齢化時代を迎え、お年寄りの元気の良い姿に共感しました。日本がどこへ向かおうとしているのか不安が社会を覆うなかで、お年寄りの未来を見つめる強いまなざしに込められた頑固なまでの意志と決意、そして同時にユーモラスな暖かさも感じられ、希望を抱かせる作品となっていて、時代の空気とともに、作者の強い思いも感じさせる作品です。

準特選の2点は図らずも若い高校生の作品となりました。藤崎みちこさん「鯨の散歩」は、なにげない日常の街の一隅に突然鯨が現れるという、不思議な夢を見るようなインパクトのある作品です。鯨がとてもリアルに、少し年齢を重ねてきたように描かれています。鯨の真下でカメラを抱えている女性がいるせいで、巨大な力がわたしたちの上に突然のしかかってくるかのような不安を感じさせます。そこに今日の気分を感じさせはしますが、しかし作者は過度に暗喩的にも象徴的にもならず、まるで現実の光景でもあるかのようにさりりと描いています。そこに多様な「絵を読む」魅力を作り出していると思います。

一方の永島舞華さん「崩れゆく校舎と私」は、女子高生の自画像でしょうか。そのなにげない表情のなかに、若者に特有の未知への不安と希望がないまぜになっているように感じられます。いつ崩れるかわからない現実に、やや屈折したまなざしを向け、それでも現実と必死で戦おうとする意志を感じさせます。時代を超えた若者の姿に共感しました。

奨励賞と努力賞の7点には、それぞれの良さがありますが、共通して絵画的な魅力を感じさせるものを選びました。

全体的に、こういう光景を描いたら絵になる、というような定型化した風景（心象もふくめ）が多く見られるのは残念です。先入観にとらわれない自由で破天荒な作品がもっと見られるといいなと思います。

【日本画・水墨画・ちぎり絵等部門】

大分市（大分県立芸術文化短期大学教授） 河上 央

第64回延岡市美術展覧会の出品作品は、実力が接近し優れた作品が多数見受けられました。また、日本画・水墨画・ちぎり絵等（切り絵・剪画を含む）と多様な表現方法の作品を審査する難しさも感じました。

応募作品を慎重に選考いたしました。優劣をつけながら作品を選出していくのは非常に辛い作業でもあります。けれども審査上、やはり技巧や色、形、構成といった造形力を比較しながら入選、入賞を決定しました。どの作品からも熱心に作品に取り組んでいる姿勢がひしひしと伝わってきました。

では、今回の審査で入賞した作品について述べたいと思います。

特選の原辰義さん「時の鐘つき堂」は、写実的に対象をとらえ、繊細で丹念な表現は、見るものの目をとらえる力作です。

準特選の岩切恵美子さん「梅雨の晴れ間に」は、梅雨の雰囲気素直に伝わってきます。好感のもてる作品です。

奨励賞の工藤晏生さん「My Play Area in Childhood」は、暗い記憶と楽しい思い出を画面の中に自由に表現され、作品から生き生きさを感じます。

努力賞の坂本真理さん「食卓は戦場」は、大胆に赤い蟹を皿に乗せ、まわりには食器類を配置し、伸び伸びとした作品です。

これらの入賞作品以外にも賞に入れたい作品がありましたことをお伝え致します。

最近の傾向として、写真を使って作り上げた作品が多くなりました。便利な道具を使用することは悪くはないのですが、もう一度自分の目を通してモノを捉える姿勢は必要なことと思います。デッサンを何度もすることは、自分のイメージを明確に作り上げるには大切なことです。それぞれ表現方法は違いますが、各材料を活かし制作に励まれることを願います。

最後に、これからも延岡市美術展の益々の充実、発展を祈念申し上げまして講評とさせていただきます。

【彫刻・工芸部門】

宮崎市（宮崎大学教育文化学部教授） 石川 千佳子

64回という長きにわたって、情熱をこめた作品が多数寄せられる理由の一つでしょうか。延岡市美術展は、市民の美術展としては、入選数の絞り込みが厳しいと思います。したがって、彫刻、現代美術的なオブジェ、陶芸、染織、刺繍、キルト、竹工芸と、立体も平面も入り混じった作品が集まる彫刻・工芸部門の審査は、非常に悩ましいものでした。それぞれのジャンルに特有の技法や表現はありますが、一つの部門にまとめられていますので、美術全般に共通する造形力と表現力という視点に立って、入選および入賞作品を選んでまいりました。

特選となった「停滞と昇華」は、木彫の技術に課題を残しますが、考え抜かれた腕の角度とトリミング、そして台座に立てられた指の緊張がダイナミックな空間を形成しています。本部門の応募作品の中で、最も強度のある作品でした。

染色作品が多いのは、本展の特色ではないかと思われれます。準特選の「天空のバラ」は、色彩を極力抑えて形の要素も絞り込むことで、構成力と技術の確かさが前面に現れました。また、奨励賞の「結婚しよう」は絵画的な作品で、細部の丁寧な描写と鴛鴦おしどりのほのぼのとした表情が、親密で温かい味わいを醸し出しています。

また、デザイン性が高く評価されたのは、奨励賞のキルト「原点」です。基本的にモノクロームの幾何学的な構成なのですが、四角形の傾きとアクセントとなる赤の十字形、そして曲線を描く縫い取りの組み合わせから、全体に生き生きとしたリズムが生じています。

やはり数多い陶芸では、奨励賞の「薪能灯り」が、造形的な面白さと照明としての効果を、技術的な確かさによって破綻なく融合させています。努力賞の「双宴花器」には、粗削りながら、大胆な形と装飾に若々しい感性がみられました。

その他、和紙と糸で作られた抽象画の趣のある「ito-cube」や、ナイーブな表現に好感がもてる「梅雨の風」等も注目された作品です。

全体として、今回は彫刻やオブジェの少ない印象です。本部門の特性を逆手に取った、ジャンルの融合や横断を試みる現代的な作品の出現も期待しておきたいところです。

【グラフィックデザイン部門】

東京都（イラストレーター、アニー賞受賞者） 上杉 忠弘

昨年に続き、グラフィックデザイン部門の審査を担当させていただくことになりました。

審査にあたっては、技巧の優劣だけではなく、「情報を視覚化し不特定多数の人々に伝達する」という『グラフィックデザイン』の基本を満たしているかどうかを重視いたしました。

『グラフィックデザイン』が実際に使用される状況では、依頼者が必ず存在しています。依頼者の要求を理解し、整理して誰がみても分かる形に視覚化する技能が製作者には求められます。

ただし、技能だけでは人の心を捉えることはできません。優れたアイデアと、それを補う技術が両輪となったときに、はじめて人を惹きつける何か生まれ、そこにさらに美意識が付加されたときに優れた作

品と言えるものに昇華するのではないかと思っています。

特選 河野英樹「めぐる九州つながる延岡」

今回の応募作の中では唯一、具体的な使用法を想定して描かれた作品です。情報を的確にまとめ上げ、テーマに対して集約させた技能の部分を評価させていただきました。ただ、絵の部分だけ取り上げて見ますと、色面のバランスも良く、絵に華やかさがあって目を惹きますが、文字要素が加わったときに絵に文字が圧されて窮屈な感じになっているように思いました。絵と文字が補い合うようなバランスで描かれると、さらに良いものになるのではないかと思います。

また、手法的には情報をたし算的に盛り込むという古典的なものですので、新鮮さには乏しいと思います。「そつなく纏めた」というところから一步踏み出したものがみてみたいと思いました。

準特選 古川友江「兎の瞳」

切り絵によるイラストレーションと文字要素等を組み合わせてシンプルに纏めたセンスを評価させていただきました。エディトリアルデザインを意識して制作されたものでしょうか、とても上品に纏められている作品だと思いますが、伝達性という点では些か不明瞭であるように思いましたので次点とさせていただきました。

奨励賞 齋藤光果「月の裏」

グラフィックデザインというよりは、『イラストレーション』の範疇に入る作品だと思いますが、画面構成のセンスとフォルムの洗練度を高く評価いたしました。「かっこいい」ものを作りたいという意思が感じられるのが良いと思います。「かっこいい」を志向することはデザインにおいてはとても重要なことだと思います。

努力賞 田上士六「住宅塗装のすすめ」

なにより描かれた巨大な女性の顔にインパクトがあり、アイデアの部分を評価いたしました。

ただし、画面上のタイルによって書かれたモザイク状の文字の視認性が悪く、テーマを理解するのに時間が掛かるという部分はマイナスになっていると思います。ご自分のアイデアが第三者にはどうみえるのかを客観的に考え、画面構成に時間を掛けるとさらに良いものになるのではないかと思います。

今回は、高校生の皆さんの作品群が印象に残りました。部活等での制作なのでしょうか、同一のフォーマットに沿って制作されたと思われるものも多く、その中で優劣がついてしまうことになりましたが、上記『グラフィックデザイン』として成立しているかどうかという点に沿った結果です。

「デザインとは何のためにあるのか？」というところを制作の際に意識していただけると、そこを起点に視野が広がり、さらに良いものになっていくのではないかと思います。

【書道部門】

熊本市（日展会友・読売書法会理事） 江上 蒼龍

書家だった父の関係で私も延岡には親しみがありますが、審査は今回が初めてで楽しみにして参りました。最近の中央の書道展の傾向として、墨量を多く含ませて線を太く元気よく運筆し、字形も懐広くゆったり運筆し力強い作品が主流となっています。今回は、漢字作品は勿論、かな作品に粒揃いのよい作品が見られました。

入賞作品を見ますと、

特選 山浦柏秀さん 金紙に濃墨で潤濁をはっきり表現して変化が豊かです。用筆も達者で行が真直ぐに通る視覚的にも鮮やかです。行間を充分あけてすっきりと収めて秀作です。

準特選 伊藤春華さん 文字の大小を作りながら行が滑らかに流れ、墨量の変化も要を得て効果を出し

ている。

準特選 前田佳泉さん 字幅の変化があり、文字を接近させたり、また間を置きながら行を進めて軽快な動きである。

奨励賞 岡崎一華さん 二行物を堂々と書いて気迫ある作品に仕上げました。墨量充分で運筆も力強く気力溢れる作品です。

奨励賞 植野寿美さん 多字数を四行に書いて運筆軽快で行も真直ぐに通じ、字幅の変化を適切に配置して運筆がよく動いています。

奨励賞 小野麗華さん 運筆が大きく動き軽快で字幅の変化もあり、運筆がよく動いています。

奨励賞 上杉珠光さん 二行目は字間が僅かに詰まった感はありますが、墨量多く線も太めで行間の処理もよく明るく収めました。

努力賞 飯干千峰さん 行の流れよく行間の余白も美しく、大きい文字が軽快で作品効果を出しています。

なお、入選に漏れた中にもよい作品がありましたが、次回また挑戦されますようお願い致します。応募要項に県内県外を問わず応募出来るということですので、もっと多くの出品があっても良いのでは、と思います。益々のご発展を祈って、簡単ですが講評と致します。

【写真部門】

東京都（写真家、プロデューサー） テラウチマサト

写真とは、表現である。

表現とは、自分の中に蓄えた喜び、怒り、美、悲しみ、哀れみ、笑い、ビジョン、などの感情を外に出すことである。

また、その表現は、繊細、丁寧、大胆、緻密、簡潔など自己の価値観にこだわった美意識でどれだけ捉えようとしたか、それが写真を撮るということだと考えている。従って、写真審査にあたっては、この2点に重きを置いて一つひとつの作品と対峙させて頂いた。

結果、素晴らしい作品に数多く出会え、私は幸せな気分である。

延岡市長賞に選んだ「春の日」は、孫とお婆ちゃんとの交流を見る撮影者の幸せ感が、見るものにも伝わる。細やかだが幸せとはこの様なものという感情を見事に形化している。

髪に付いた桜の花のディテールにもこだわり、時間経過と共に印象が深まっていく作品であることを強く評価した。

準特選の4作品は、いずれも力のこもった作品であった。

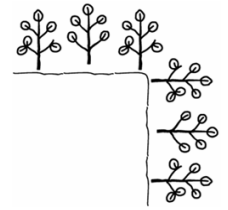
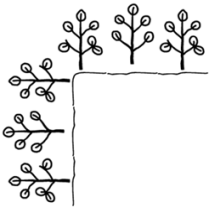
宮崎県教育長賞の「王者の貫禄」は、上位作品の中で唯一のグレーマットで覆った作品であるがグレーマットで覆うことで昆虫の不気味さを緩和している。また緑の葉の鮮かさもこの写真の魅力である。見せることに長けている。

同じく延岡市文化連盟会長賞の「もうよかろうがえ」はベストな切り取り方と最高のタイミングが生んだ作品。墨付け祭りの盛りあがり伝わる。

同じく延岡市文化連盟会長賞の「棚田の妖精」は、蛍の作品の中でも秀逸であった。同じテーマでの応募がある際に、蛍と何を組み合わせるか、ビジョンの勝利である。

そして、準特選最後の延岡市教育委員長賞の「夏雪」は、大胆な切り取り方、新しい視点、明と暗をうまく使い自分だけのモノの見方をしっかりと表現していた。世界は常に新たな発想を必要としている。写真もまた同じそれを感じさせてくれた作品。

64回続いてきた関係者の情熱の持続が、毎回新しい作品と新たなチャレンジを生んでいることに深く感銘させられた審査であった。



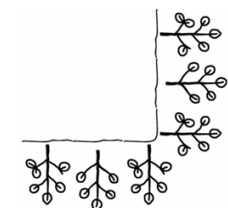
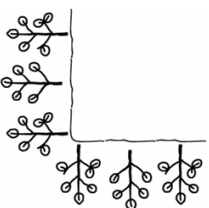
◆第64回『延岡市美術展覧会』作品出品状況

※（ ）内は昨年度

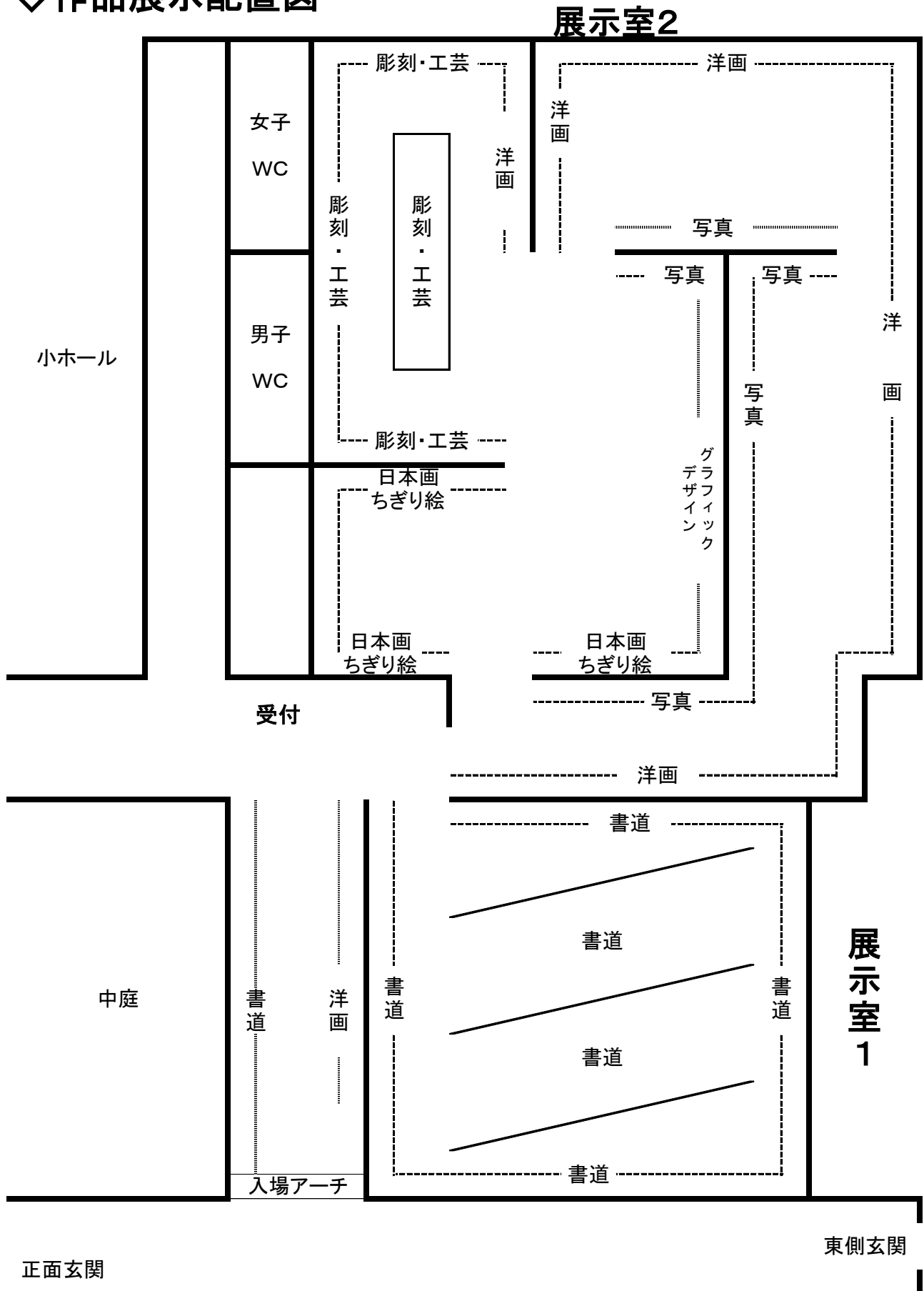
部 門	出品者数		出品作品数			C 招待作家 無鑑査	合計 (無鑑査等含む)	
	A	うち2点 出品者	一般	学生	B 小計		出品者数 A+C	作品数 B+C
洋 画	70 人 (86)	9 人 (14)	57 点 (73)	22 点 (27)	79 点 (100)	4 人 (4)	74 人 (90)	83 点 (104)
日本画・水墨画 ちぎり絵等	22 人 (27)	2 人 (2)	23 点 (29)	1 点 (0)	24 点 (29)	1 人 (1)	23 人 (28)	25 点 (30)
彫刻・工芸	38 人 (36)	6 人 (10)	33 点 (42)	11 点 (4)	44 点 (46)	3 人 (3)	41 人 (39)	47 点 (49)
グラフィックデザ イン	23 人 (21)	0 人 (0)	3 点 (3)	20 点 (18)	23 点 (21)	0 人 (1)	23 人 (22)	23 点 (22)
書 道	61 人 (66)	0 人 (0)	58 点 (63)	3 点 (3)	61 点 (66)	5 人 (6)	66 人 (72)	66 点 (72)
写 真	112 人 (123)	45 人 (45)	155 点 (163)	2 点 (5)	157 点 (168)	2 人 (2)	114 人 (125)	159 点 (170)
合 計	326 人 (359)	62 人 (71)	329 点 (373)	59 点 (57)	388 点 (430)	15 人 (17)	341 人 (376)	403 点 (447)

※〈招待作家〉…全国規模の公募展で、顕著な結果を残された方の作品

※〈無鑑査〉…「特選 延岡市長賞」を通算3回受賞された方の作品



◇作品展示配置図

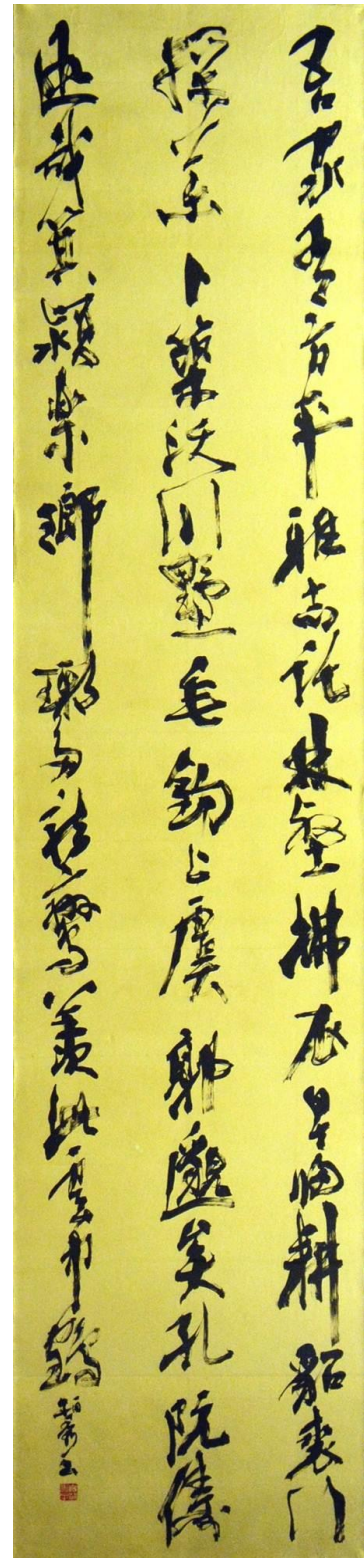




洋画部門 特選
「なに、なに？わたしも入れて！」



グラフィックデザイン部門 特選
「めぐる九州つながる延岡」



書道部門 特選
「冬日偶然作」